

第29回全国小学生作文コンクール

「わたしたちのまちのおまわりさん」

受賞名：優秀賞（低学年の部）

タイトル：ぼくの反射板

氏名：中山 蓮人（ナカヤマ レント）

小学校名：佐賀県 多久市立東原席舎中央校 二年

年長のころ、小学校に登校する練習をした。お母さんと一緒に歩いていると、おさんぼをしているみたいで楽しかった。小学生になったら毎日この道を歩くんだな、とワクワクした。歩道がせまいところや交差点のむこうが見えないところがあって、

「車がそばを通るから近づかないように気をつけるのよ。」

とお母さんが言った。ぼくも気をつけようと思った。反射板があれば“人がいる”と車から見ても分かりやすいんだって。どうすれば手に入るんだろう。警察に行けばもらえるんじゃないかと思った。勇気をだしてお母さんと警察に行き、

「反射板をもらえるか聞きにきました。」

と伝えた。警察署には五人くらいの警察の人がいて、ニコニコしながら

「もうすぐ一年生になるんだね。」

と話しかけてくれた。

「少し前までは配っていたけれど、もうないなあ。おじさんが持っているのをあげるよ。」

と机から反射板を出してくれた。すると他の警察の人も机を開き反射板を出してあつめてくれた。袋いっぱい反射板をぼくに渡し、

「これで安全に小学校に行けるよ。」

と言って笑ってくれた。警察署をでる時もみんな笑顔で見送ってくれてやさしかった。家に帰って反射板を見ると、いろんなデザインがあっておもちゃみたいで楽しそうだった。

初めて歩いていく時、“家からだいぶ遠くなった。”と思ったけれど、友だちと一緒に行くからこわくなかったし泣かなかった。

あれから時間がたってぼくも二年生になった。反射板をもらった時のことは今でもはっきり覚えている。もちろん今でもランドセルにつけているし、車にぶつかることもなく毎日学校に通っている。これからもきっと楽しく通っていけるだろう。